

## 第4回ソーシャル・キャピタル政策展開研究会 議事要旨

日時	2008年1月30日(水曜日)13時00分～16時00分	
場所	株式会社日本総合研究所 東京本社 101A・101B会議室	
出席者	研究会委員	山内座長(大阪大学国際公共政策研究科教授) 稲葉委員(日本大学法学部教授) 野村委員(富士ゼロックス株式会社シニアマネージャー)
	実務家委員	財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 石田祐氏 立命館大学 中里裕美氏
	事務局	日本総研
議事進行	1. 開会 2. 議事 ① わが国のソーシャル・キャピタル政策展開に向けて 報告書(案)について ② ソーシャル・キャピタル・アーカイブズについて 3. その他	
配布資料	資料1: ソーシャル・キャピタル政策展開に向けて 報告書 本編(案) 資料2: ソーシャル・キャピタル政策展開に向けて 報告書 資料編(案) 参考資料1: ソーシャル・キャピタル政策展開に資する各テーマの報告概要 参考資料2: 報告書(本編)の構成と概要について その他資料: アンケートクロス集計一覧	

### <議事概要>

#### 1. 開会

日本総研：それでは、第4回研究会を開催させていただく。第2回及び第3回の公開形式を踏まえた提言案を主としてご討議いただきたい。第4回研究会は、今年度の最終回である。

#### 2. 議事

##### ① わが国のソーシャル・キャピタル政策展開に向けて 報告書(案)について

稲葉委員：意見5点を述べさせてほしい。第1点は、第2章の内容を第3章に更に反映させるべきだろう。

第2点は、報告書の信憑性をあげるために、第2章にはWeb調査の限界を丁寧に記載した方が良いと思われる。

第3点は、第3章では経済格差等についても、さらに言及した方が良いと思う。

第4点は、第2章の分析手法はやや古典的で、マルチレベル分析等も出てきているため、社会因子、個人因子、中間因子を整理して分析する方法を採用しても良いかも知れない。

第5点は、SCにも色々な性格がある。私的財、公共財、クラブ財に分類できる

が、報告書ではこれを混在一体として取り扱っているため、区分した方が良い。

山内座長：第1章3節は、SCを政策的にコントロールできるかどうか観点となっているが、その前に「コントロールすべきかどうか」がある。その際に公共財について言及すれば良いだろう。

稲葉委員：私的財であっても外部性があれば、行政介入できるということ話を展開してもよいだろう。「心の外部性」の話のため、あまり過度な行政介入は好ましくないと考えるが。

山内座長：第2章は表題に「都道府県」という言葉ではなく、SCの「地域特性」などといった言葉のほうがよいだろう。また、アンケートの母数の問題もあるため、都道府県単位ではなく、大都市圏や地方等の区分で取り上げるべきである。

稲葉委員：主成分分析を行えば大都市と地方に分類することが可能である。

石田氏：サンプルサイズの限界を多少克服するために、大都市と地方に分類して比較する方法は良いと考える。

山内座長：ボンディングとブリッジングが正の相関であるという結果は面白い。

稲葉委員：Web調査には問題や限界性があるが、仮説を持って提言を行うことが重要である。学術論文であれば許されないが、今回は報告及び提言である。

山内座長：健康はSCインデックスと別の統計を取っても良いかも知れない。

日本総研：健康に関するデータも入れているが、相関に有意性が認められなかった。

稲葉委員：そうであれば、健康とSCの先行研究を引用するとよいだろう。

中里氏：報告書では原因と結果が混在しているので、整理したほうがよいだろう。また、その原因と結果の混在の危険性についても言及したほうがよいだろう。ボンディングとブリッジングの正の相関結果には、少々違和感を覚える。

稲葉委員：SC醸造要因と結果をフローチャートで書けないか。

また、NPOは様々な種類があり、どんなNPOでも促進すれば良いわけではないから、具体的なNPOを示したほうがよいだろう。また、最近では医療分野でSC研究が展開されており、ボンディングが治療に有効である病気も特定されつつある。もう少し視野を広くして、最近の先端研究をまとめたほうがよいだろう。

日本総研：原因と結果の体系において、外部データとの因果関係は推測できるものの、SC内部のデータ間の関係は決め打ちになってしまうが、それで良いか。

山内座長：それで良いと思う。

稲葉委員：先行研究を参考にするとよいだろう。

日本総研：第3章は政策担当者に活用して頂く目的の元で作成した。本当にこの内容で政策担当者が活用できるのかご議論頂きたい。また、3章の各論はこの取り扱いで良いかご議論頂きたい。

稲葉委員：第3章では、海外の先行研究をもっと参考にすべきである。一般的には、経済格差、IT化はSCの要因であり、教育や健康、研究開発は結果と考えられている。

因果関係は実証研究では検証が難しいので、先行研究を参考にすべきである。また、政策として活用することが目的であるのならば、知らない人が重要と思うような書きぶりにしたほうが良いだろう。

山内座長：第 1 章第 2 節は定量箇所であるため、第 2 章の冒頭に持ってきたほうがよいだろう。第 2 章は定量分析でまとめ、第 1 章は概念を書き込むべきである。第 1 章第 3 節は第 3 章の最初に持ってきたほうがよいだろう。また、資料編の最新の研究動向に関するレビューは、本編に入れ込むべきである。

また定量の経年比較は、むしろここ数年で安定していると読めるのではないか。

稲葉委員：日本総研には毎年アンケート調査をして頂きたい。ボンディングとブリッジングの正の相関関係についてもっと分析を深めてもよいだろう。

山内座長：レーダ表はゼロを基準にすべきである。ゼロの基準がないため、分かりにくい。

稲葉委員：内閣府の調査との整合性もあるので、都道府県ランキングは出さないほうが良いかも知れない。

日本総研：都道府県ランキングは順位を示した図表はカットする。

稲葉座長：信憑性を保つために、相関の見られなかった既存統計データ名は掲載しないほうがよいだろう。

山内座長：相関分析の目的をもっと明確に記載したほうがよいだろう。

また、第 1 章第 3 節は、パットナムの批判はやめて、文中を表現する表を掲載した方がよいだろう。

日本総研：第 1 章第 3 節は、そのように修正する。

山内座長：パットナム以外の研究者の考え方も掲載したほうがよいだろう。また、文献リストを入れて頂きたい。

資料編にある名簿は本編に入れ、全員の名前を掲載したほうがよいだろう。

稲葉委員：報告書の表題は、第 3 回アンケート調査を実施したことが伝わるような名前が良いだろう。せつかくなので、日本総研を宣伝してはどうか。

山内座長：例えば「SC の定量分析と政策展開 日本総研全国調査結果報告」などがよいだろう。

稲葉委員：プレスリリースを行い、引用されたときに日本総研の名前を出るようにすべきである。

野村委員：政策提言と前半のつながりを明確化することが重要である。エッセンスが浮かびあがってくるような構成が望ましい。

## ② ソーシャル・キャピタル・アーカイブズについて

日本総研：ソーシャル・キャピタル・アーカイブズを構築し、山内研究室で 4 月以降にアップロードいただく運びとなっている。

稲葉委員：個票は公開するのか。

日本総研：日本総研データは公開可能であるが、関連諸機関のものは法的に難しい。

山内座長：研究事例はリンクさせたほうがよいだろう。書籍掲載の基準は何か。

日本総研：内閣府調査と農水省調査の書籍を基本としている。

山内座長：報告書、論文、出版書籍などで分類分けした方がよいだろう。

山内座長：「抜けているものがあればお知らせください」などの文章を追記したほうがよいだろう。掲示板を作るのもよいだろう。

日本総研：迷惑メールの排除が問題となる。

山内座長：掲示板だけ独立させる方法はある。

日本総研：データ更新・運用に大学生を活用できたら良いと考えているが、どうか。

稲葉委員：大学性の活用は実は難しい側面もある。

山内座長：来年度以降も調査を実施するのか。

日本総研：予算の問題はあるが、実施したいと考えている。ビジネスとしてはなかなか厳しい。

野村委員：SC 調査を地域再生などに結び付けてビジネスを行う方法もあるだろう。もしくは企業に対してビジネスを行う方法もよいだろう。例えば、アーカイブ等で具体的なツールを企業が入手し、それを使って他社がコンサルティングを行い、日本総研にマージンが入るといった方法もある。

### 3. その他

日本総研：改定版報告書は2月中に委員の確認をとり、末には何とか完成させたい意向である。

山内座長：報告書の販売もよいだろう。

日本総研：調査は今後も継続していきたい。皆様には末永くご協力をお願い頂きたい。

以上